

森美術館 2025年度企画展スケジュール

不透明な未来にどのようなビジョンが描けるのか

2025年度、森美術館は引き続き、世界情勢や現代アートの国際的な動向を視野に入れた展覧会やラーニングプログラムをお届けします。不透明感を増す未来に、私たちはどのようなビジョンが描けるのでしょうか。さまざまなアーティストやクリエイターの革新的かつ多角的な視点をとおして、現代社会を俯瞰することから考えてみたいと思います。

既にお知らせしている「マシン・ラブ:ビデオゲーム、AIと現代アート」(2025年2月13日~6月8日)では、今まさに注目されている新しいテクノロジーが芸術表現にどのような影響や可能性をもたらすのかを探求します。続いて7月から11月には「藤本壮介展」を開催します。森美術館ではこれまでル・コルビュジエ、フォスター+パートナーズ、ヘザウィック・スタジオといった建築家・スタジオの個展を開催してきましたが、今回は現代美術館における建築展の在り方そのものに挑戦し、建築思想の本質を空間的に体感するような展覧会を目指します。そして12月から2026年4月にかけては、再び「六本木クロッシング」がやってきます。2004年以来、日本の現代アートの動向を定点観測してきた同シリーズは、回を重ねるごとに注目度が増しています。8回目となる「六本木クロッシング2025展」では森美術館のキュレーター2名の視点に、アジアから日本を見るゲストキュレーター2名の経験や視点を融合させ、2025年時点におけるローカリティの意味やアジアにおける日本の位置づけなどを複層的な視点から掘り下げて考察します。

2025年度の森美術館にもどうぞご期待ください。

森美術館 館長 片岡真実

藤本壮介展

会期:2025年7月2日[水]ー11月9日[日]

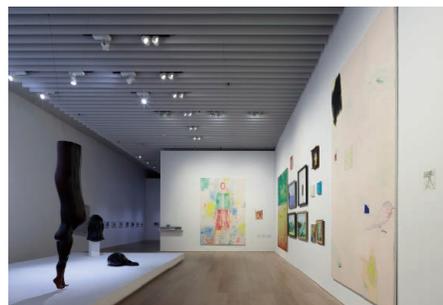
藤本壮介
《ラルブル・プラン(白い樹)》
2019年
フランス、モンペリエ
撮影:イワン・バーン



六本木クロッシング2025展

会期:2025年12月3日[水]ー2026年4月5日[日]

展示風景:「六本木クロッシング2025展:往来オーライ!」
森美術館(東京)2022-2023年
撮影:木奥恵三
※参考図版



プレスリリース お問い合わせ 森美術館広報事務局(共同ピーアール内):日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

藤本壮介展

会期：2025年7月2日[水]－11月9日[日]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

主催：森美術館

企画：近藤健一（森美術館シニア・キュレーター）、椿 玲子（森美術館キュレーター）

藤本壮介（1971年、北海道生まれ）は東京とパリ、深圳に設計事務所を構え、個人住宅から大学、商業施設、ホテル、複合施設まで、世界各地でさまざまプロジェクトを展開しています。《武蔵野美術大学美術館・図書館》（2010年、東京）を手掛けた後、近年では集合住宅《ラルブル・ブラン（白い樹）》（2019年、フランス、モンペリエ）や音楽複合施設《ハンガリー音楽の家》（2021年、ブダペスト）など、高い評価を得たプロジェクトを次々と完成させ、現在は、「2025年大阪・関西万博」の会場デザインプロデューサーを担当するなど、いま、最も注目される日本の建築家の一人です。

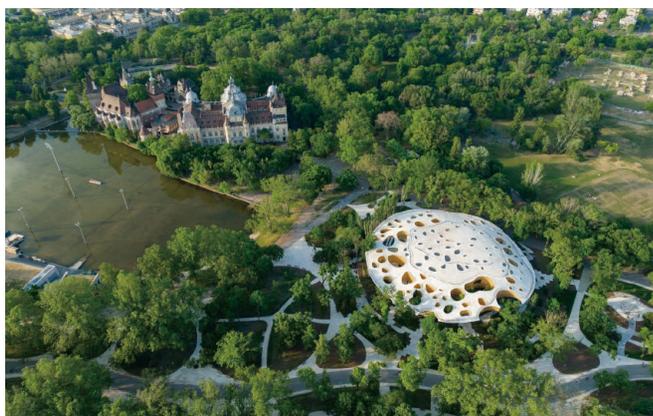
本展は、藤本にとって初の大規模な回顧展となります。活動初期から世界各地で現在進行中のプロジェクトまで主要作品を多数紹介し、四半世紀にわたる建築家としての歩みや建築的特徴、思想を概観します。また、模型や設計図面、記録写真に加えて原寸大模型やインスタレーションなども展示に含まれ、藤本建築のエッセンスを視覚的にも空間的にも体験できる現代美術館ならではの建築展となる予定です。

藤本壮介 略歴

1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞《ラルブル・ブラン（白い樹）》に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、「2025年大阪・関西万博」の会場デザインプロデューサーに就任。2021年には岐阜県飛騨市の「Co-Innovation University（仮称）」キャンパスの設計者に選定される。主な作品に、《House N》（2008年、大分）、《武蔵野美術大学美術館・図書館》（2010年、東京）、《House NA》（2011年、東京）、《サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013》（2013年、ロンドン）、《ラルブル・ブラン（白い樹）》（2019年、フランス、モンペリエ）、《白井屋ホテル》（2020年、群馬）、《石巻市複合文化施設》（2021年、宮城）、《ハンガリー音楽の家》（2021年、ブダペスト）等がある。



撮影：デビッド・ウィンティナー



藤本壮介 《ハンガリー音楽の家》（外観）[左]、（内観）[右] 2021年 ブダペスト
撮影：イワン・バーン

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

六本木クロッシング 2025 展

会期：2025年12月3日[水] – 2026年4月5日[日]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

主催：森美術館

企画：レオナルド・バルトロメウス（山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター）

キム・ヘジュ（シンガポール美術館シニア・キュレーター）

徳山拓一（森美術館キュレーター）

矢作 学（森美術館アソシエイト・キュレーター）

「六本木クロッシング」は、森美術館が3年に一度、日本のアートシーンを総覧する定点観測的な展覧会として2004年から開催しているシリーズ展です。森美術館のキュレーターが数名のゲスト・キュレーターと共同で企画し、複数の視点の交差によって日本のアーティストを選出します。既に国際的な活躍が目覚ましいベテランから今後の活躍が期待される新進気鋭の若手まで、また、現代美術のみならず、建築、ファッション、デザインなど、他ジャンルのクリエイターを紹介してきたことも、創造活動の交差点（クロッシング）となる展覧会を目指した本シリーズの特徴です。

シリーズ8回目となる本展では、アジアを拠点にグローバルなアートシーンで活躍するキュレーターたちと協働し、国際的な視点から日本のアートを捉えます。多文化主義が進んできた一方で、様々な軋轢や分断に直面する現代において、アーティストたちの活動も影響を受け、変化し、そして、新たな表現を生み出しています。日本のアートの今、そしてそれがより大きな文脈の中でどのような意義を持っているのかを改めて検証します。



市原えつこ
《未来SUSHI》
2022年
食品サンプル、食器、回転コンベア、電子パーツ、人型ロボット、3Dプリント素材、アクリル、木材、ほか
サイズ可変
展示風景：「六本木クロッシング2022展：往来オーライ！」森美術館（東京）2022-2023年
撮影：木奥恵三
※参考図版



SIDE CORE / EVERYDAY HOLIDAY SQUAD
《rode work ver. Tokyo》
2018/2022年
工事用照明器具、単管、チェーン、作業船、ビデオ、ほか
サイズ可変、ビデオ：5分3秒
展示風景：「六本木クロッシング2022展：往来オーライ！」森美術館（東京）2022-2023年
撮影：木奥恵三
※参考図版

最新のプレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/fy2025/>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp